

令和元年度 金沢ベーシックカリキュラム実践推進事業 報告書

学校名	研究課題	研究手法
三和小学校	教科一般	生徒指導の機能を生かした指導

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 協働的で学び合いのある授業づくりの工夫

一人一人が輝く授業づくりをめざし、生徒指導の3機能（自己決定・自己存在感・共感的な人間関係）を授業に生かしつつ、学び合いの授業づくりを行ってきた。いつ、何のために、どのような学び合いを生み出すことがより効果的であるかを模索しながら、授業実践を積み重ねた。

(2) 「わかった」「できた」を保障する終末

児童の「わかった」「できた」を積み重ねるために、終末の時間を大切にしたい。学習課題に対して、まとめを自分の言葉で書けるようになることをめざし、段階的・統一的指導を行った。また、適用問題に取り組む時間やふりかえりを書く時間を確保することで、学びを実感できるようにした。

2 取組の検証

(1) 児童アンケート

- ・授業の学習内容がよくわかる 昨年度 86.7% → 今年度 88.1%
- ・授業で友達と考えを出し合いながら考えを深めている 昨年度 76.2% → 今年度 78.6%
- ・授業の最後にまとめやふりかえりを書ける 昨年度 92.0% → 今年度 89.5%

(2) 教員アンケート・授業整理会での協議

- ・“学び合い”の活動の中で、児童に自己決定の場を与えたり、共感的な人間関係を育んだりするような授業を工夫している。→肯定的評価92%
- ・生徒指導の3機能を生かし、学び合いが生まれる授業づくりを行ったことにより、授業に向かう姿勢や態度が育ってきている。

3 成果と課題

- ・ペア・グループ学習を積極的に取り入れたことで、児童相互の学び合いのある授業や全員参加の授業につながった。
- ・まとめを自分の言葉で書くことができるように段階的・統一的な指導を行ったことで、約9割の児童が自分の言葉でまとめを書くことができ、学びの自覚化につながることができた。
- ・適用問題や振り返りに取り組むことで、学びの自覚化を図っているが、各種学力調査や単元末テスト等において、学習内容の定着に課題が見られる。